

別記様式（第7条関係）

会議録

- 1 会議の名称 第2回 富士川町観光振興計画検討委員会
- 2 会議日時 令和7年12月23日（火）午後7時～
- 3 開催場所 富士川町役場 会議室 201
- 4 出席者数 委員8名（欠席者2名）、事務局3名、傍聴者0名
- 5 議題（会議の内容）
 - 開会
 - 委員長挨拶
 - 議事
 - (1) アンケート結果について
 - (2) 第3次富士川町観光振興計画(案)について
 - (3) その他
 - その他
 - 閉会
- 6 会議資料の名称
 - 第3次富士川町観光振興計画(案)
 - 令和6年山梨県観光入込客数 調査結果概要、同調査報告書【抜粋】
- 7 発言の内容（議事ほか）

開会

事務局より開会の挨拶があり、本委員会の目的として、第3次富士川町観光振興計画（案）について意見を聴取し、今後の計画策定及びパブリックコメントに向けた検討を行う旨の説明があった。

委員長挨拶

委員長より、町長選挙を経て町政が新たな体制となる中で、本計画は今後10年間を見据えた重要な計画であること、限られた条件の中でも実効性のある、アクティブな計画とするため、忌憚のない意見を求めたいとの挨拶があった。

議事

- (1) 各種アンケート結果について

事務局より、計画案12～18ページに基づき、町内在住者及び町外来訪者を対象としたアンケート結果について説明があった。

主な内容は以下のとおり。

- ・回答数は町内 117 件、町外 7 件であり、町内回答が大半を占めている。
- ・回答者は 60 代以上が最も多く、在住年数 10 年以上の住民が 9 割を超えている。
- ・観光の印象については「あまり魅力を感じない」が最も多く、「魅力的」「どちらとも言えない」が続く結果となった。
- ・観光振興に力を入れるべき分野としては、「自然」「食・特産品」「体験」「温泉・イベント」が上位となった。
- ・情報入手先としては、新聞・インターネット、SNS、パンフレット・チラシが多く、SNS の重要性が示された。
- ・自由記載では、観光の核となる目玉づくり、受入環境の整備、情報発信の強化、既存資源の活用、商業・特産品による賑わい創出、観光に依存しすぎないまちづくりなど、多岐にわたる意見が寄せられた。

町外来訪者アンケートについては、回答数が少ないものの、自然や人の温かさへの評価がある一方、道迷いなどの課題も指摘された。

委員長からは、町内と町外で感じる魅力の違いや、ターゲット設定の重要性について問題提起がなされ、アンケート結果は参考資料として捉えつつ、計画にどう反映させるかが重要であるとの発言があった。

(2) 第 3 次富士川町観光振興計画（案）について

事務局より、計画案全体の構成及び主な内容について説明

計画は第 2 次計画を踏襲しつつ、中部横断自動車道の開通や新型コロナウイルスの影響を踏まえた内容としており、計画期間は令和 8 年度から令和 17 年度までの 10 年間としている。また、アンケート結果の反映や数値目標の設定を新たに盛り込んでいる。

地域別には、都市田園地域、平林地域、穂積地域、中部・五開地域の 4 区分ごとに、観光資源、課題、方向性を整理し、町全体としては観光周遊ルートの形成、受入環境整備、情報発信強化、関係団体との連携等を柱とした施策を示している。

数値目標としては、観光入込客数及び町民満足度の向上を掲げている。

主な意見・発言

A 委員

- ・観光入込客数の推移について、令和 6 年に減少している要因として、天候不順によるさく

ら祭りの来場者減少など、背景を把握しておく必要があると指摘

- ・穂積地域のあじさい祭りについて、高齢化や人手不足により管理が困難になっている現状を踏まえ、町として準備段階からの支援やボランティア活用を検討すべきと提案
- ・ダイヤモンド富士の景観について、樹木の成長により撮影環境が悪化している点を指摘し、町として景観保全に関与する必要性を述べた。
- ・数値目標（10%増）の根拠が不明確であるため、施策と連動した目標設定が望ましいと意見を述べた。

B 委員

- ・写真撮影目的の来訪者によるマナー違反（ごみ・排泄問題、無断伐採等）が地元で深刻な迷惑を及ぼしていると指摘
- ・観光客数の増加だけを目的とするのではなく、マナーを守る来訪者をどう受け入れるかという視点が必要であると発言
- ・カーナビの誤誘導により集落内に車が入り込み、住民生活に支障が出ている問題について、町から業者に働きかけができないかとの相談があった。

C 委員

- ・観光振興を進めることで、地元への負担が増える可能性を指摘し、交通整理や受入体制整備の重要性を強調
- ・観光 DMO であるふじかわまちづくり公社の役割が計画に明記された点を評価した一方で、実施段階における財源確保の見通しが不明確であり、計画実現性への懸念を示した。
- ・新規事業よりも、既存資源や既存事業の中で重点化・選択と集中を行う必要があるとの意見を述べた。

D 委員

- ・つくたべかんの運営状況を例に挙げ、観光施設が地域にとって負担となっている現実を指摘があった。
- ・山間地域では人手不足が深刻であり、すべての地域を同様に活性化するのではなく、取捨選択が必要ではないかとの問題提起を行った。
- ・新しいアイデアがあっても実行できない状況は望ましくなく、計画の中でその方向性を示す必要があると述べた。

E 委員

- ・観光振興を進める上では、町外への PR だけでなく、町内、特に若い世代が主体的に関われる仕組みづくりが重要であると発言
- ・SNS による情報発信は有効であるが、イベント告知中心ではなく、日常の暮らしや人の

魅力が伝わる発信が必要であるとの意見があった。

- ・観光施策が単発で終わらないよう、担い手の育成や継続性を計画の中で明確に位置付けるべきであると述べた。

F 委員

- ・観光振興にあたっては、町民が観光をどのように受け止めているかを丁寧に把握することが重要であるとの意見があった。
- ・観光施策が一部の関係者だけの取組にならないよう、情報共有や住民理解を進める必要があると指摘
- ・観光による効果を町民が実感できる形で示すことが、計画推進の鍵になるとの考えを示した。

G 委員

- ・観光資源を個別に捉えるのではなく、近隣市町や関係団体との連携を含め、面的に活用していく視点が重要であるとの意見が示された。
- ・来訪者の動線や滞在時間を意識した施策を検討することで、地域全体の価値向上につながるなどの指摘があった。
- ・住民の理解と協力を得ながら段階的に進めることが、持続可能な観光振興につながるなどの考えが示された。

事務局

- ・数値目標については、現時点では案であり、委員の意見を踏まえて再検討する考えを示した。
- ・あじさい祭りやダイヤモンド富士の景観については、関係団体や地元と相談しながら町としての関わり方を検討していくと説明した。
- ・予算については、既存予算の中での対応が基本となるが、中長期的には事業提案や予算要求を行っていくとした。

まとめ・今後の対応

- ・数値目標や重点施策については、実現性・根拠を明確にした上で計画案を修正する。
- ・本日の意見を踏まえ、事務局において計画案を修正し、次回委員会で再度検討を行う。
- ・次回検討委員会は1月中に実施し、そこで出た意見を含めて、パブリックコメントを1か月間行い、それで提出された意見を含め、計画を作成したら庁内の検討委員会に諮る。
- ・庁内の検討委員会実施後、策定を進める。